

## 正誤表

「ビジュアル臨床血液形態学（第4版）第1刷」

下記の箇所に戻りおよび表現を誤解のないよう改めるべきものがございました。

謹んでお詫びし訂正いたします。

頁	該当箇所	誤	正
74	右段本文 23行目	メイ・グリウンワルド・ <u>ギムザ</u> （パッペンハイム染色）	メイ・グリウンワルド・ <u>ギムザ染色</u> （パッペンハイム染色）
85	図6-13 IIの説明文	蓋をして1～ <u>2</u> 分 標本を固定する。	蓋をして1～ <u>3</u> 分 標本を固定する。
117	8)血液像（写真⑧）5行目	写真⑦に示す単球に比べ、核クロマチンは粗剛である。	好中球は写真⑦に示す単球に比べ、核クロマチンは粗剛である。 ※下線部追加
118	12)血液像（写真⑫）3行目	核は <u>類馬蹄形</u> を示すことから単球である。	核は <u>馬蹄形様</u> を示すことから単球である。
124	24)骨髓像（写真⑳）2行目	9時方向に <u>多染性赤芽球</u> がみられる。	9時方向に <u>正染性赤芽球</u> がみられる。
128	40)骨髓像（写真㉑）7～8行目	下方の2個の <u>多染赤芽球</u> は細胞分裂を終えようとする <u>タイミング</u> と思われる。	下方の2個の <u>多染性赤芽球</u> は細胞分裂を終えた <u>タイミング</u> と思われる。
325	左段本文 4～6行目	CD8弱陽性(dim)の部分にはNK細胞の一部とγδT細胞の一部が含まれる。	CD8弱陽性(dim)にはNK細胞の一部とγδT細胞の一部が含まれる。
328	左段本文 16～19行目	WHO分類の「混合型白血病診断のための基準」に記載されている“強陽性”については、芽球の細胞質内(cytoplasmic; cy)CD3については、検体中に混在する正常リンパ球の	WHO分類の「混合型白血病診断のための基準」に記載されている“強陽性”については、芽球の細胞質内(cytoplasmic; cy)CD3は、検体中に混在する正常リンパ球の
332	表10-r 5(4) ZAP-70	T細胞 NK細胞に発現し、CLLにも発現することがある。ZAP70の発現はIgVHの体細胞突然変異を反映し	T細胞 NK細胞に発現し、CLLにも発現することがある。ZAP70陰性はIgVHの体細胞突然変異を反映し
337	左段本文 6～7行目	一方、IgM/IgDのB細胞腫瘍は濾胞を <u>通っていないこと</u> (pre-GC)を意味する。	一方、IgM/IgDのB細胞腫瘍は濾胞を <u>通過していないこと</u> (pre-GC)を意味する。
352	左段本文 10～11行目	本症例も CD19 <sup>+</sup> CD5 <sup>+</sup> CD10 <sup>-</sup> CD23 <sup>+</sup> で、CD20と <u>CD20</u> は著しく減少(20%以下)である	本症例も CD19 <sup>+</sup> CD5 <sup>+</sup> CD10 <sup>-</sup> CD23 <sup>+</sup> で、CD20と <u>CD22</u> は著しく減少(20%以下)である
367	右段本文 7～9行目	典型的な表面形質は、CD3 <sup>+</sup> CD4 <sup>+</sup> CD8 <sup>-</sup> で、CD7やCD26を <u>欠損</u> する。また、 <u>多くの症例はPD1(CD279)を発現</u> する。	典型的な表面形質は、CD3 <sup>+</sup> CD4 <sup>+</sup> CD8 <sup>-</sup> で、CD7やCD26を <u>欠損</u> し、 <u>多くの症例はPD1(CD279)を発現</u> する。

2022年7月15日  
株式会社南江堂